

流域における対策 (補足資料)

東京都下水道局の浸水被害を軽減する取組（樋門の遠隔化）

- 樋門操作盤を宅地側に増設し堤外地へ行かないと操作できない二か所の樋門の遠隔化を実施

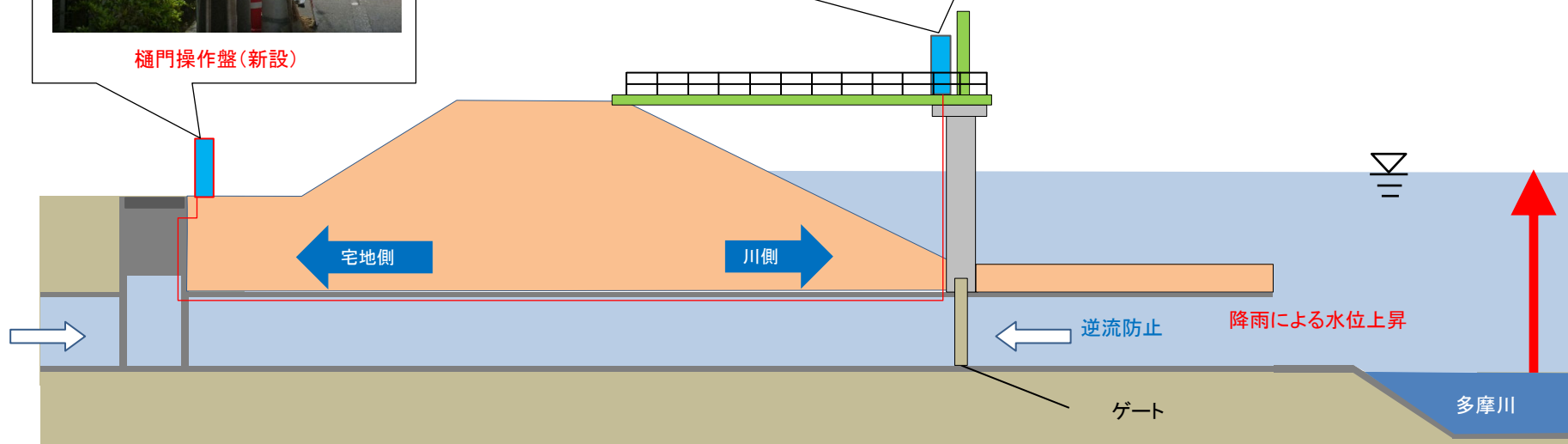
取組内容



樋門操作盤（新設）



樋門操作盤（既設）



イメージ図

狛江市の浸水被害を軽減する取組（排水ポンプユニットの導入）

○令和元年東日本台風での内水氾濫被害を受け、排水ポンプユニットを導入した。導入に先がけて、狛江市消防団による運用訓練を実施した。

取組内容



大田区の浸水被害を軽減する取組（排水ポンプ車の運用 水防資機材センターの建設）

- 迅速に水防活動に対応できるよう排水ポンプ車、可搬式ポンプの操作訓練を実施
- 水防活動の資機材拠点となる水防資機材センターの建設を実施

取組内容

排水ポンプ車、可搬式ポンプの操作習得訓練実施

概要 迅速に水防活動ができるよう出水期前に職員で排水ポンプ車、可搬式ポンプの操作訓練を実施

写真

排水ポンプ車



可搬式ポンプ



水防資機材センターの建設（令和3年11月完成）

概要 災害時には、備えられた土砂ストックヤードから土のう作成、備蓄、搬出を現地倉庫内で行う施設です。
令和4年度より運用を予定している。

写真

外観



倉庫内



世田谷区の浸水被害を軽減する取組（排水ポンプ車の配備・土のうステーションの増設等）

- 排水ポンプ車2台を配備した。
- 区内の土のうステーションを増設した。

取組内容

排水ポンプ車の配備・操作研修の実施

浸水被害を軽減させ、また被害からの迅速な復旧を図るため、令和2年度にポンプ車2台を配備した。また、排水ポンプ車の作業手順等を確認し、円滑な作業を行えるよう、出水期前に操作研修等を行った。

- 性能（排水ポンプ車1台あたり）
 - 最大毎分10m³排水可能
 - 標準揚程10m（最大20m）
- 用途
 - 浸水した家屋等からの排水
 - 水門（樋門・樋管）閉鎖時の内水排除



○操作研修の紹介

【会場】大田区防災機材センター
（大田区より借用）

【研修内容】

- ・外部講師を招き、研修を実施。
- ・資器材の設置及び貯水槽を利用した排水作業を実施した。
- ・排水作業にかかる所要時間や必要人員の確認・共有を行った。



土のうステーションの増設

区民がいつでも土のうを持ち出しできる「土のうステーション」を増設し、大雨時の需要に対応する。

○台風第19号以降の取り組み

- 台風第19号による需要の急増を受け、令和元年度から令和3年度にかけ、設置数を54基→80基に増設した。
- 令和4年度中を目途に、80基→90基まで増設を予定している。



その他、世田谷区の取組

○台風第19号以降の主な取り組み

- 等々力排水樋門における、堤内地への操作盤の増設及び操作専任態勢の確保に向けた近傍待機場所の確保。
- 多摩川専用土のう倉庫の設置。（土のう2,000袋・止水板等を配備）
- 多摩川現地指揮体制の強化。
- 風向・風速計の増設。
- 吉沢橋付近での野川溢水対策の実施。（止水板の補修等）

外